

1学期あと1週間になりました。子どもたちはしっかりと学び浸っているようです。しかし、暑いんだなあ～

教えるから賢くなれる

水泳学習が佳境を迎えています。6年生の活動に目を向けると、2人でシンクロスイミングをしているようです。シンクロといっても、クロールを2人でピッタリ合わせることが目的。最初はどうもいきません。

「なんか…うまくいかないから…どうすればうまくいくのかなあ？」

「う～ん、どっちが見やすい？右側？じゃあ、今度は私が右側になる」

得意なかなさん（仮名）がどちらかというと苦手なみなさん（仮名）のお尋ね（お願いかな）で、泳ぐ位置を変更してみるようです。さらに活動は続きます。

「追いつかない…タイミングがとりづらいんだけど、どうすればいいの？」

「伸ばせばいいんだけど…あっ、だから手を伸ばした時に前の水をつかむような感じで、伸ばす！」

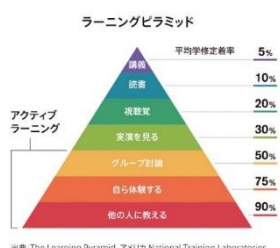
どうやら、シンクロのコツを2人ともつかみ始めています。そうすると、泳ぎ自体がダイナミックになり、どちらもストリームラインが美しくなり、苦手なみなさんはおろか、得意なかなさんまで成長し始めていました。ピッタリ感も出てきました。

素敵な学び合いの姿です。

ここで注目したいのは、苦手なみなさんも成長しているんだけど、得意なかなさんまで成長しているということ。かなさんにとっては、今、自分ができることを「教える」だけの活動に見えがちな、この学び合いという活動は、実は、かなさんの「わかりなおし」を絶大に促します。

この「わかりなおし」こそが、わかるということの本質なのです。

なんだそれ？



左のピラミッドのような図をご覧ください。（小さくてすいません。大きくしてみてください。）我々昭和世代の授業は、一番上の「講義」が中心でした。

「先生の言うことを、よく聞きなさい！」

そんな感じ。

しかし、その「講義」による学習では、定着率が5%ほどしかかないことが明らかになってきたのです。言い換えると、ほとんどわかっていない、ということ。

逆に、「他の人に教えること」の効果は、驚愕の90%。効果絶大です。

確かに、実感はありますよね。友達に学習したことを教えたり、話したりすると、自分がよくわかっていないことに気づいたり、改めてわかったりすることって。情報として、こんなことだと知ったところで、実際の生活や学習には使えないんだけど、友達に教えたり、話したりしているうちに、自分自身でその情報が使える状況を例に考えてみたり、実際に使ったりしながら、なるほどそうかと、教えている本人が肚落ちしていく。肚落ちした知識があるから、体がスムーズに動く。できるようになっていく。そうか、「わかりなおし」こそが、本当にわかることの正体なのだ。

そういえば、ご家庭で学習している子どもさんに「教えていた」お家の方が、よくわかった、ってこと、ありませんか。逆に、つい答えを教えたくなくても、お子さんに「なんでそうなるの?」「どうすればいいの?教えて!」とお尋ねしながら説明を促すことで、時間は少々かかるかもしれませんが、学習成果が上がることになるかもしれません。